平成２８年度

事　業　報　告　書

自）　平成２８年　４月　　１日

至）　平成２９年　３月３１日

社会福祉法人　鈴鹿市社会福祉協議会

■ 目 次

１．社協活動体制の強化

・会務の運営 ・・・ 1

・第３次地域福祉活動計画の推進 ・・・ 3

２．社協財政基盤の強化

・自主財源の確保 ・・・ 4

３．地域福祉推進事業

・地区社協連絡会議・地区社協研修会の開催 ・・・ 5

・地区社協補助事業・小地域ネットワーク見守り活動の推進 ・・・ 6

・ふれあいいきいきサロン事業 ・・・ 7

・鈴鹿市福祉施設連絡協議会の開催 ・・・ 8

４．福祉教育推進事業

・福祉協力校連絡会議の開催 ・・・ 9

・福祉協力校の指定 ・・・ 10

・ワークキャンプ事業 ・・・ 11

５．福祉啓発事業

・ふれあい広場鈴鹿の開催 ・・・ 12

・鈴鹿市社会福祉大会の開催 ・・・ 13

・社協事業の啓発 ・・・ 14

・イメージキャラクターかりんちゃんの運営 ・・・ 15

６．福祉サービス支援事業

・ふれあいふくし総合相談事業 ・・・ 16

・福祉有償運送事業 ・・・ 17

・車椅子等貸出事業 ・・・ 18

・おもちゃ図書館の運営 ・・・ 19

・一人暮らし高齢者給食サービスの実施 ・・・ 20

・母子父子寡婦家庭・児童支援事業 ・・・ 21

・生活困窮者に対する資金の貸付事業 ・・・ 22

・行旅人・ホームレス自立支援事業 ・・・ 23

７．ボランティアセンター機能の充実

・ボランティア登録 ・・・ 24

・ボランティアスクール・精神保健福祉講座の開催 ・・・ 25

・ボランティアセンター事業 ・・・ 26

・ボランティアコーディネーターによる調整 ・・・ 28

・災害ボランティアセンター事業 ・・・ 29

■ 目 次

８．社会福祉センターの管理運営

・社会福祉センターの維持管理・バスの運行 ・・・ 32

９．介護保険・障害者自立支援事業

・訪問介護事業所の運営・総合支援法（居宅介護）地域生活支援（移動支援） ・・・ 33

・居宅介護支援事業所の運営 ・・・ 34

１０．受託事業

・日常生活自立支援センターの運営 ・・・ 35

・地域包括支援センターの運営 ・・・ 36

・鈴鹿市療育センターの運営 ・・・ 39

・鈴鹿市障害者生活介護施設ベルホームの運営 ・・・ 42

・認知症初期集中支援チームの運営 ・・・ 45

１１．成年後見制度利用支援事業

・鈴鹿市後見サポートセンターの運営 ・・・ 46

社協活動体制の強化

事　業　名	会務の運営（１．理事会 ２．評議員会 ３．監事会 ４．三役会）
事業内容	１．理事会　…　法人における執行機関として開催 （1）第 1 回理事会（平成 28 年 5 月 24 日開催） ①平成 27 年度事業報告及び会計資産関係の決算の承認について ②変更評議員の選任について ③社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会理事選任規程の一部改正について ④社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会評議員選任規程の一部改正について ⑤鈴鹿市社会福祉協議会各事業所運営諸規程の一部改正について　他 （2）第 2 回理事会（平成 28 年 12 月 9 日開催） ①鈴鹿市社会福祉協議会定款の変更について ②変更評議員の選任について ③鈴鹿市社会福祉協議会各事業所運営諸規程の一部改正について　他 （3）第 3 回理事会（平成 29 年 1 月 25 日開催） ①鈴鹿市社会福祉協議会役員選任規程について ②鈴鹿市社会福祉協議会評議員選任及び解任規程について ③鈴鹿市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会運営細則の制定について ④鈴鹿市社会福祉協議会評議員候補者の選任について　他 （4）第 4 回理事会（平成 29 年 3 月 14 日開催） ①平成 28 年度会計資産関係の補正予算の承認について ②平成 29 年度事業計画及び会計資産関係の予算の承認について ③社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会経理規程の一部改正について ④社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について ⑤非常勤職員の雇用等に関する就業規則の一部改正について ⑥定款変更に伴う諸規程の一部改正について ⑦平成 28 年度共同募金運動及びチャリティバザー実績報告について ⑧実績報告について ２．評議員会　…　法人における議決機関として開催 （1）第 1 回評議員会（平成 28 年 5 月 26 日開催） ①平成 27 年度事業報告及び会計資産関係の決算の承認について ②理事及び監事の選任について ③社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会評議員選任規程の一部改正について ④鈴鹿市社会福祉協議会各事業所運営諸規程の一部改正について （2）第 2 回評議員会（平成 28 年 12 月 14 日開催） ①鈴鹿市社会福祉協議会定款の変更について ②鈴鹿市社会福祉協議会各事業所運営諸規程の一部改正について　他 （3）第 3 回評議員会（平成 29 年 3 月 23 日開催） ①平成 28 年度会計資産関係の補正予算の承認について ②平成 29 年度事業計画及び会計資産関係の予算の承認について ③社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会経理規程の一部改正について ④社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について

	⑤非常勤職員の雇用等に関する就業規則の一部改正について ⑥定款変更に伴う諸規程の一部改正について ⑦平成 28 年度共同募金運動・チャリティバザー実績報告について **３．監事会　…　法人における監査機関として開催** （1）第 1 回監事会（平成 28 年 5 月 17 日開催） ①平成 27 年度事業報告及び会計資産関係の監査について **４．三役会〔会長・副会長会議〕　…　法人における最高執行機関として開催** （1）第 1 回三役会〔会長・副会長会議〕（平成 28 年 9 月 29 日開催） ①改正社会福祉法に関連する協議 （2）第 2 回三役会〔会長・副会長会議〕（平成 28 年 11 月 9 日開催） ①定款の変更等に関連する協議
課題および今後の方針	今後、理事会及び定時評議員会を適時に開催し、法人会務の運営及び経営組織のガバナンス強化に取り組む。

社協活動体制の強化	
事　業　名	**第３次地域福祉活動計画の推進**
事業内容	**１．第 3 次鈴鹿市地域福祉活動計画の推進** 「第 2 期鈴鹿市地域福祉計画（行政計画)」との整合性を図り、2 次計画からの継続した事業や、地域での新しい課題について、4 つの基本目標に基づいた 28 の事業を策定し、事業実施に取り組んだ。 ○基本理念 「一人ひとりが“元気なまち”をみんなでつくる」 「一人ひとりの“しあわせな暮らし”をみんなで支える」 **（1）第 1 部会** ＊基本目標 1「地域で活躍するひとづくり」 ・地域福祉サービスの担い手づくり ・ボランティア・NPO 活動などの推進 ・地域福祉活動を推進するリーダーやコーディネーターの養成 **（2）第 2 部会** ＊基本目標 2「多様なニーズのための支援体制づくり」 ・次世代を担う子どもたちへの福祉学習・福祉教育の推進 ・様々な国の人たちとの共生活動を通しての地域づくり ・地域におけるひきこもり支援体制の整備 ・様々な福祉課題を抱える当事者への支援 **（3）第 3 部会** ＊基本目標 3「みんなが支え合う地域づくり」 ・地域における見守り支援のネットワークの構築 ・地域で支え合う仕組みや拠点づくり ・災害時における支援体制の強化 **（4）第 4 部会** ＊基本目標 4「地域力を生み出す社協基盤づくり」 ・寄付や募金の仕組みづくり ・イメージキャラクターを活用した様々な地域福祉の推進 ・社会福祉協議会の事業をより多くの人に知ってもらうための広報の工夫 ２．第 3 次地域福祉活動計画完成報告会 日　時 ： 平成 28 年 6 月 27 日（月）19:00～ 場　所 ： 社会福祉センター　2 階　大広間 参加者 ： 策定委員、部会委員、鈴鹿市障害福祉課、社協職員 内　容 ： 部会の策定事業や活動内容の情報共有（部会報告） グループワーク「これから私たちにできること」 ３．第 3 次地域福祉活動計画事務局会議 社会福祉協議会職員で計画推進について協議検討を実施した。
課題および今後の方針	平成 28 年から平成 31 年までの 4 年間の「第 3 次地域福祉活動計画」の初年度にあたり、取り組めなかった事業もあるが、進捗状況の点検や評価を行う「評価推進委員会」の意見を取り入れながら、PDCA サイクルの考え方に基づいた事業を推進していきたい。

社協財政基盤の強化	
事　業　名	**自主財源の確保（1. 会費　2. にこちゃん募金　3. 資格試験講座　4. バザー）**
事業内容	**１．社協会費** （1）社会福祉に関心を有し、趣旨に賛同していただいた方を会員とする。 （2）会費は年額とし、団体、施設会員の会費は一口 3,000 円、個人会員は一口 1,000 円、賛助会員は 5,000 円である。 （3）会員数は団体・施設 60 口、個人 151 口、賛助 0 口であった。 **２．にこちゃん募金** （1）社会福祉事業に理解がある店舗等に、にこちゃん募金箱を設置しており、14 店舗の協力があった。（福祉センター含む） （2）回収は 12 月に行い、協力金額は 26,129 円であった。 **３．資格試験講座** （1）介護支援専門員実務研修資格試験受験対策講座の実施 ①資格試験の合格を目指すことを目的に対策講座を実施した。 平成 28 年 7 月 10 日、7 月 24 日、7 月 31 日に全 3 回コースで行った。講師は本会職員が行い、受講料については 1 人 15,000 円とした。 ＊参加者 18 名 **４．チャリティバザー** （1）バザー開催日・・・平成 29 年 2 月 5 日（日曜日） （2）バザー品の出品については自治会ごとに出品を依頼。また民生委員や老人クラブ、行政機関、農業委員会、市内商業施設にも出品の協力依頼を行った。 （3）バザー品の仕分けについてはボランティア、値付けやバザー当日の運営については民児協の協力を得た。 （4）全体の売り上げは 942,410 円であった。（前年度より 58,050 円減） （5）毎年恒例となっている軽食販売・農産物販売も好評で、当日は悪天候の中多くの来客があった。
課題および今後の方針	チャリティバザーについては、年々出品物数が減少傾向にあるものの、民生委員、ボランティアによるきめ細やかな運営サポートや、チャリティーイベントとしての周知等が売上に繋がっている。また、商業施設への出品物依頼や、軽食販売、農産物販売も大きな売り上げとなっており、地域住民の理解をいただきながら、次年度も地域福祉推進のための自主財源確保に努める。

地域福祉推進事業	
事　業　名	**地区社協連絡協議会の開催・地区社会福祉協議会研修会の開催**
事業内容	１．鈴鹿市地区社会福祉協議会連絡協議会の開催 ・参加地区：白子・飯野・玉垣・牧田・庄内・石薬師・国府・庄野 椿・加佐登・鈴峰・合川・天名・稲生・井田川・栄 深伊沢・一ノ宮・箕田・若松　20 地区（38 名） ・日　　時：平成 28 年 5 月 18 日（水曜日） ・会　　場：鈴鹿市社会福祉センター　大広間 ・協議内容：(1) 地区社会福祉協議会補助金交付について (2) ふれあいあいきいきサロンについて (3) 地域エリア別職員担当制について (4) 地域と災害ボランティアセンターとの 連携に関する研修会
課題および今後の方針	地域エリア別（包括エリア単位）に職員担当制を設けて、各地区社協事業に積極的に関わり、地域との連携を深めた。平成 29 年度も、生活支援コーディネーターと連携をはかりながら、より一層の各地区社協との連携強化に努め、小地域福祉活動の推進に取り組んでいく。

地域福祉推進事業	
事　業　名	**地区社協に対する補助金の交付・小地域ネットワーク見守り活動の推進**
事業内容	**１．一人暮らし高齢者の集い** 地区社協や民児協が中心となり実施する一人暮らし高齢者を対象とした交流事業に対し、補助金の助成を行った。 ＊平成 28 年度事業実績 ・地区社協　19 地区、民児協　3 地区 ・補助金額　762,600 円 **２．地区社会福祉協議会活性化事業** 地区社協が関わり実施した地域福祉推進事業に対し、補助金の助成を行った。 ＊平成 28 年度事業実績 ・地区社協　18 地区 ・補助金額　733,706 円 **３．小地域ネットワーク補助金** 地区社協が実施する要援護者を対象とした見守り活動に対して、ケース数に応じて、補助金の助成を行った。 ＊平成 28 年度事業実績 ・地区社協　14 地区 ／ ケース数　1,057 ケース ・補助金額　625,000 円
課題および今後の方針	全体的に、助成額が増加しており、自主財源の確保や共同募金事業を強化する等して、十分な助成を行うための予算確保も課題となっている。 平成 29 年度はさらに、各地区に対し、予算の有効的な使い方や地域福祉活動へのきめ細かなアドバイスを働きかけていく必要がある。

地域福祉推進事業

事　業　名	ふれあいいきいきサロン事業
事業内容	住民が安心して暮らすことができるよう小地域で福祉活動を行うサロン団体や当事者グループに対し、共同募金配分金より年間 45,000 円を限度として補助金を助成している。 **1．平成 28 年度助成実績** （1）ふれあいサロン事業　50 団体・2,210,000 円 （2）当事者団体が行うふれあい交流事業　12 団体・　500,000 円 （3）子育て育☆いくサロン事業　3 団体・　90,000 円 **2．平成 28 年度　ふれあいいきいきサロン会議、研修会の開催** ・日　時　：平成 28 年 4 月 27 日（水曜日）10：00～ ・内　容　： （1）研修会 講義：「鈴鹿流の『見守り』をサロンから考え合ってみましょう」 講師：皇學館大学 教育開発センター 准教授　板井 正斉 氏 （2）ふれあいいきいきサロン助成金について （3）事務局貸出機材について （4）ボランティア行事用保険について ・参加者　：72 名 ※内容が異なるため、14:00～ふれあい交流事業向けの説明会、 15:00～子育て育☆いくサロン向けの説明会を行った。 **3．鈴鹿市自治会連合会　第 1 ブロック研修会でのサロン説明会の実施** ・日　時:平成 29 年 2 月 18 日(土) ・場　所:鈴鹿市農村環境センター　鈴鹿市岸田町 1549-12 ・参加者:第 1 ブロック自治会長約 70 名と地区市民センター長 9 名 (椿、鈴峰、庄内、深伊沢、久間田、庄野、加佐登、石薬師、井田川) ・内　容： （1）活動サロンからの報告 ①いこいの家麦　瓜生氏 ②星のかけら　皆木氏 ③はる風サロン　杉野氏 （2）サロン全体の説明（社協　内山） （3）総合事業について（鈴鹿西部地域包括支援センター所長　鈴木氏）
課題　および今後の方針	研修会では、サロン活動の必要性・効果・期待等について再確認することができた。また、地域においてもサロン活動を啓発する機会が少しずつ増えてきた。 平成 29 年度（10 月）から鈴鹿市の介護予防普及啓発事業が開始するため、高齢者対象サロンについては移行を推進するとともに、小地域でのサロン活動を啓発していく。

地域福祉推進事業

事　業　名	鈴鹿市福祉施設連絡協議会の開催
事業内容	１．第１回 鈴鹿市福祉施設連絡協議会 ・日　時：平成 28 年 5 月 10 日（火曜日） ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター　中会議室 ・協議事項 （1）平成 28 年度　役員改選について （2）平成 27 年度　共同募金運動報告について （3）平成 28 年度　第 29 回ふれあい広場鈴鹿報告について （4）平成 28 年度　第 32 回ワークキャンプについて （5）第 3 次地域福祉活動計画について （6）その他 ①貸出機材について ②ボランティア通信について ２．第２回 鈴鹿市福祉施設連絡協議会 ・日　時：平成 28 年 9 月 8 日（木曜日） ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター　中会議室 ・協議事項 （1）平成 28 年度　第 32 回鈴鹿市ワークキャンプ報告について （2）平成 28 年度　第 30 回ふれあい広場鈴鹿について （3）平成 28 年度　赤い羽根共同募金運動の依頼 （4）第 3 次地域福祉活動計画（ダイジェスト版）について ３．研修会 講義：「福祉施設における成年後見制度」 講師：鈴鹿総合法律事務所　弁護士　庄山 哲也　氏 ＊加盟施設　32 施設（平成 27 年度より 2 施設増）
課題および今後の方針	会議や研修会を通し、第 3 次地域福祉活動計画や社会福祉協議会の取り組み等を報告し、鈴鹿市における課題等について情報共有を実施した。また、研修会を実施することにより、加盟施設職員のスキルの向上につながった。 平成 29 年度前期では加盟施設（ルーエハイム）から地域公益活動の実践発表を行う。後期では研修会を設け、福祉施設連絡協議会内で情報共有やスキルアップに努める。

福祉教育推進事業	
事　業　名	**福祉協力校連絡会議の開催**
事業内容	**１．第１回福祉協力校連絡会議** 開催日程：5 月 12 日（木） 小中高等学校の部合同開催 【会議内容】 （1）平成 27 年度福祉協力校活動報告について （2）平成 27 年度共同募金実績報告について （3）第 29 回ふれあい広場鈴鹿報告について （4）平成 28 年度学童・生徒のボランティア活動普及事業助成金 申請書類について （5）福祉協力校地域交流事業について （6）平成 28 年度第 32 回鈴鹿市ワークキャンプについて （7）福祉体験学習・総合学習について （8）その他 **２．第２回福祉協力校連絡会議** **開催日程：9 月 5 日（月）** 小中高等学校の部合同開催 【会議内容】 （1）平成 28 年度共同募金運動について （2）第 30 回ふれあい広場鈴鹿について （3）平成 28 年度　第 32 回ワークキャンプについて （4）平成 28 年度学童・生徒のボランティア活動普及事業助成金 （5）報告書類について （6）その他連絡事項 ペットボトルキャップ（エコキャップ）回収について （7）認知症サポーター（キッズサポーター）養成講座について ＊鈴鹿市健康福祉政策課　地域包括ケア推進室 ＊鈴鹿中部地域包括支援センター
課題および今後の方針	福祉協力校連絡会議（後期）にて、小中学生対象の認知症サポーター（キッズサポーター）養成講座について啓発を図った。実際に市内小学校 10 校から各地域包括支援センターや市社協に依頼が入っており、今後も福祉協力校と連携しながら周知啓発に努めてまいりたい。 また、先進的な取り組みを行っている学校に対して、活動報告の場を設け、他の学校の活動の参考としていただき、福祉協力校活動の相乗効果を促していきたい。

福祉教育推進事業

事　業　名	福祉協力校の指定
事業内容	１．福祉協力校の指定 （1）小学校　…30 校 （国府・庄野・加佐登・牧田・清和・石薬師・白子・鼓ヶ浦・旭が丘・桜島・愛宕・稲生・飯野・明生・河曲・一ノ宮・長太・箕田・若松・玉垣・神戸・合川・天名・郡山・鈴西・椿・深伊沢・庄内・井田川・栄） （2）中学校　…11 校 （平田野・創徳・白鳥・神戸・大木・千代崎・白子・鼓ヶ浦・天栄・鈴峰・鈴鹿） （3）高等学校　…6 校 （神戸・白子・石薬師・稲生・飯野・鈴鹿） （4）特別支援学校　…1 校 （杉の子特別支援学校） ２．内容 各福祉協力校では福祉委員会、ボランティア部、生徒会などを中心に地域での福祉活動やボランティア活動に取り組んでいる。また社協事業（ワークキャンプ・ふれあい広場鈴鹿・赤い羽根共同募金運動）への協力も得ている。 ３．学童・生徒のボランティア活動普及事業への助成 福祉協力校の児童生徒を対象に社会福祉への理解や関心を深めるとともに地域の様々な福祉活動に参加することを目的とした事業に対し、1 校 50,000 円を鈴鹿市の福祉協力校に助成している。 ⇒小学校 30 校、中学校 10 校、高校 6 校、特別支援学校 1 校に対して助成 ＊助成金については共同募金配分金を活用 ４．福祉協力校地域交流事業への助成 福祉協力校が実施する活動の中で地域住民や組織と連携し行う地域密着型の活動について、1 校 30,000 円を上限として助成を行った。 ⇒小学校 10 校、高校 1 校に対して助成 ＊助成金については共同募金配分金を活用 ５．福祉授業の実施 社協職員による車いす体験授業やアイマスク・白杖体験授業、又外部講師を招いての福祉授業を実施した。 ⇒小学校 11 校、高校 1 校にて実施 ＊公民館（児童向内容）2 カ所でも実施
課題および今後の方針	平成 28 年度の地域交流事業については、平成 27 年度に比べて助成申請校が増加しており、各学校の福祉に対する取り組みの中で、地域団体との共同事業が多くなっていることが挙げられる。また継続的に学校に対して、福祉授業の出前講座や外部講師とのコーディネートなど、福祉の取り組みを支援していきたい。

福祉教育推進事業

事　業　名	ワークキャンプ事業
事業内容	**１．目　的** 福祉協力校の児童・生徒が地域に生きる高齢世代の方や、障がいを持った方とのふれ合いや交流活動を通して、それぞれの個性や人格を認め合い、生きる事を喜び合える「思いやりの心」と「共に生きる」ことの尊さに気付くことを目的としている。また、児童・生徒、教諭、学校が地域社会での役割や協働について考えることも目的として開催している。 **２．実施日程** 平成 28 年 7 月 20 日（水）～8 月 31 日（水） **３．参加者（福祉協力校児童・生徒）** 【小学校の部】 ・小学校　　173 名（30 校） 【中学・高校の部】 ・中学校　　50 名（ 10 校） ・高等学校　　40 名（　6 校） 【特別支援学校の部】 ・高等部　　6 名（　1 校） **４．受け入れ施設** 【高齢者施設　16 施設】 ・南山・鈴鹿聖十字の家・伊勢マリンホーム・鈴鹿グリーンホーム・ルーエハイム・ひまわり・ひまわり苑・アルテハイム鈴鹿・鈴の丘・和・マリンの家・サロン花葉・ルーエハイム椿・鈴鹿シルバーケア豊壽園・桜の森白子ホーム・かなしょうず園 【障がい者施設　12 施設】 ・和順学園・すずかぜ・コスモス・八野生活介護センター・八野就労支援センター・しろこワークス・すずわ・鈴鹿けやき苑・しらさぎ園・ステップワークすずのね・ベルホーム・鈴鹿市生活介護センター 【私立保育園　7 施設】 ・ひので保育園・ぐみの木ほいくえん・みそら保育園・ほうりん保育園・鼓ヶ浦保育園・サン保育園・長太の浦保育園 ＊中学・高校の部については、8 月 10 日に社会福祉センター大広間にて事後学習会を開催した。
課題および今後の方針	ワークキャンプ事業も 32 回目を迎え、平成 28 年度も 250 名を超える生徒・児童が市内各施設にて福祉体験を行った。 今後、学校や施設にも、事業の意義や効果を福祉協力校会議や福祉施設連絡協議会などを通して的確に伝えていき、さらなる理解と協力を得られるよう努める。

福祉啓発事業

事　業　名	１ふれあい広場鈴鹿　２鈴鹿ふくし講演会の開催
事業内容	**１．ふれあい広場鈴鹿** 市民参加の形で「福祉意識のネットワークづくり・福祉のまちづくり」を推進していくため、子どもからお年寄り、障がいのある方々が、世代を超えてお互いの交流を深め、「福祉」を見つめ直し、活動の輪を通じて、未来につながる「福祉の輪」を広げることを目的に、市民・各団体・企業・施設・福祉協力校・ボランティア総参加のもとに開催。また、被災地復興支援を目的としても実施し、収益の一部を被災地へ寄付した。平成 28 年度の『ふれあい広場鈴鹿』は、第 30 回の記念開催となり、記念イベントを多数企画し盛大に開催した。 ・日　時　：平成 28 年 10 月 8 日（土曜日）10 時 00 分～15 時 00 分 ・会　場　：鈴鹿ハンター、弁天山公園 ・協力団体・人数 (1)　福祉施設および福祉団体 ・福祉施設（20 施設）　488 名 ・福祉団体（10 団体）　258 名 (2)　福祉協力校（15 校）　76 名 (3)　ボランティア （グループ・個人・学生）　212 名 (4)　実行委員会参画団体　81 名 (5)　その他関係者　272 名 (6)　一般参加者（推定）　3,500 名 参加者合計　4,887 名 ・協賛金合計　1,010,000 円 （協賛企業・団体 57、実行委員参画団体 13） ・震災支援募金合計　203,573 円（28 団体） ・実行委員会　年間 5 回開催 第 30 回ふれあい広場鈴鹿は、各ブースで 30 回を記念する要素を含み多くの人の参加があった。特に屋外ステージのフィナーレでは、白子高等学校吹奏楽部の演奏とともに、会場全体で「花は咲く」の大合唱をし、会場全体が一体となり温かい雰囲気で終えることができた。 また、平成 27 年度に引き続き被災地復興支援イベントとして、福祉施設・団体等による模擬店売上金寄付やチャリティふるまい（もち・だご汁）の寄付で集まった支援金を、「岩手県大槌町社協・熊本県熊本市社協（大地震で被災した)」へ送金した。 **２．鈴鹿ふくし講演会の開催** 鈴鹿市各種計画周知イベントの中で地域福祉講演会を鈴鹿市と共催で行った。 ・日時　平成 29 年 2 月 14 日（火）14:00～16:15 ・場所　鈴鹿市ふれあいセンター　（鈴鹿市南玉垣町 6600） ・内容　講演：支援で変わる認知症の人の毎日 ～ご近所さんは、認知症の人の強力な助っ人、なじみの顔が笑顔をつくる～ 講師：玉田　浩一　氏　（太陽の家・施設長）・参加者：約 230 名
課題および今後の方針	ふれあい広場鈴鹿では、平成 28 年度の 30 回大会において数多くの新イベントを企画してきたが、実行委員会の反省会で配置や場所の影響から集客が少ないブースもあったことがあげられた。反省点を改善し、より充実させていきたい。平成 29 年度の 31 回目に向け、新しい企画やイベント内容についても実行委員会に積極的に提案していきたい。

福祉啓発事業

事　業　名	**第３９回　鈴鹿市社会福祉大会の開催**

事業内容

１．第 39 回鈴鹿市社会福祉大会

・開催日時　　平成 28 年 11 月 25 日（金）
第 1 部　13 時 00 分～14 時 00 分
第 2 部　14 時 00 分～15 時 30 分

・開催場所　　鈴鹿市文化会館けやきホール

（1）第 1 部式典について

永年にわたり社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰し感謝の意を表すると共に、社会福祉関係者および市民一人ひとりが「福祉の心」を育み、ぬくもりに満ちた地域社会づくりを推進していくことを目的に開催した。

・被表彰者の人数、団体数

市長表彰	福祉団体役員	1
	社会福祉施設団体職員	3
	ボランティアグループ	3
	個人ボランティア	1
社協会長表彰	民生委員・児童委員	3
	福祉団体役員	1
	社会福祉施設団体職員	20
	ボランティアグループ	13
	個人ボランティア	7
共同募金会長感謝	共同募金関係	6

・市長表彰 5 名と 3 グループ、社協会長表彰 31 名と 13 グループ、
共募会長表彰 6 名　　計 42 名と 16 グループ

（2）第 2 部記念講演について

講師：島田妙子　氏

両親の離婚を機に児童養護施設で暮らし、父の再婚後、継母と実父による壮絶な虐待を受けてきた経験から、本当の意味での「児童虐待の予防」にむけての自叙伝を執筆するとともに、「大人の心を助ける」講演活動を積極的に行っている。

「ガラスの心～虐待防止に向けて今私たちに出来ること～」と題し、当時の状況や思い、今に至るまでの人生について実体験を基にした講話をいただいた。

課題および今後の方針

第 1 部式典で学生生徒 2 名に福祉体験発表をしていただいた。福祉施設体験で得られた生徒の純粋な思いや考え、気持ちの変化などの発表に会場があたたかい雰囲気に包まれた。第 2 部の講演も大きな課題についての講演会ではあったが、非常に理解しやすく好評であった。平成 29 年度以降も地域の課題について市民に分かりやすい講演を企画していきたい。

福祉啓発事業

事　業　名	**社協事業の啓発（1. 広報紙　2. ホームページ　3. Facebook　4. 報道機関）**

事業内容

１．広報紙の発行

「社協すずか」を月１回、鈴鹿市報に折り込み発行している。

号　数	発行日	主な内容
第 361 号	04 月 20 日	ボランティア養成講座参加者募集
第 362 号	05 月 20 日	28 年度予算と事業内容
第 363 号	06 月 20 日	27 年度事業報告・決算報告
第 364 号	07 月 20 日	第 3 次地域福祉活動計画策定報告
第 365 号	08 月 20 日	徘徊高齢者等のための安心ネットワーク事業
第 366 号	09 月 20 日	外国人向け介護福祉士対策講座のお知らせ
第 367 号	10 月 20 日	第 39 回鈴鹿市社会福祉大会案内
第 368 号	11 月 20 日	第 30 回ふれあい広場開催報告
第 369 号	12 月 20 日	チャリティバザー開催に伴う出品物協力のお願い
第 370 号	01 月 20 日	チャリティバザー開催のお知らせ
第 371 号	02 月 20 日	鈴鹿市共同募金のつどいお知らせ
第 372 号	03 月 20 日	赤い羽根共同募金実績報告

２．ホームページの運営

新着情報や各種募集案内などを定期的に更新している。

３．Facebook ページの運営

「鈴鹿市社会福祉協議会」と「かりんちゃん」のページを運営。事業の報告を写真付きで投稿している。

４．報道機関への情報提供

記者クラブへ寄付や事業などの情報提供を行い、新聞各社の取材を受けている。

課題および今後の方針

社協すずかは例年同じような内容になっており、文字数も多く、見づらいとの声がある。第３次地域福祉活動計画に則り、外部の声を取り入れながら、社協すずかを含め、啓発活動全般の見直しを行っていきたい。

福祉啓発事業

事　業　名	イメージキャラクターかりんちゃんの運営

事業内容

1．活動内容

（1）着ぐるみ活動

活動日時		事業内容
平成 28 年	04 月 24 日	国際交流フェスタ 2016 わいわい春祭り
	07 月 10 日	第 66 回社会を明るくする運動
	07 月 30 日	バイクであいたいパレード 2016
	07 月 30 日	すずか元気まつり
	10 月 08 日	第 30 回ふれあい広場鈴鹿
	11 月 03 日	税を考える週間（税金クイズ大会）
	12 月 10 日	市民活動フェスタ 2016 すずかの「輪」
平成 29 年	01 月 08 日	平成 29 年鈴鹿市成人式
	03 月 18 日	第 3 回鈴鹿市共同募金のつどい

（2）着ぐるみの貸出

本会の広報啓発の促進及び本市の法人企業等の要望に応えることを目的として、着ぐるみの貸出を行っている。

（貸出実績）

①第 87 回都市対抗野球大会、スタンド応援による地域（福祉）PR
（7 月 11 日～ 28 日）

②ふれあいフェスタ、栄地区地域交流イベント
（10 月 16 日）

（3）フェイスブックページの運用

かりんちゃんフェイスブックページにて、着ぐるみ活動報告や本会の活動報告等を定期的に投稿している。

（4）その他

赤い羽根共同募金との連携による、募金に繋がるカレンダーを作成。
2017 年のかりんちゃんカレンダーを 1,500 部作成し、1 冊 300 円で、販売額の一部が募金となる仕組みで販売した。

課題および今後の方針

誕生から 5 年が経過し着ぐるみの劣化が目立ってきた。年間を通じたイベントへの出演等が定着し、地域福祉活動の PR や本会イメージキャラクターとしての活動を今後も着実に取り組んでいくため、着ぐるみの補修が必要である。

また、第 3 次地域福祉活動計画の中にイメージキャラクターを活用する計画が複数あるため、今後は関係機関や地元企業との連携、協働を図り、計画の実践に取り組んでいく。

福祉サービス支援事業

事　業　名	ふれあいふくし総合相談事業

事業内容

１．弁護士（元公証人）相談　・・・遺言、離婚、金銭契約などの民事法律相談

（実施日程）　毎月 第１土曜日

（相談開催日数）11 日

２．司法書士相談　・・・不動産や登記など財産に関する相談

（実施日程）　毎月 第３土曜日

（相談開催日数）12 日

３．高齢者健康相談・・・高齢者の健康相談、血圧測定の実施など

（実施日程）　毎月 第２・４火曜日

（相談開催日数）24 日

４．一般相談　　・・・生活全般、日常の心配事に関する相談

（実施日程）　毎月 月・水曜日

（相談開催日数）93 日

５．平成 28 年度相談件数　122 件

相談事項	弁護士相談	司法書士相談	一般相談
生計			2
年金			1
職業・生業			
住宅	1	1	4
家族	1	1	10
結婚			
離婚	11	1	1
健康・衛生			
医療			
精神衛生			3
人権・法律			
財産	24	36	1
事故	1		
児童福祉			
母子・父子			
老人福祉			1
教育・青少年			
心身障がい者（児）			
苦情			3
その他	8	2	9
総計	46	41	35

６．高齢者健康相談件数　64 件

課題および今後の方針

平成 28 年度より公証人相談を弁護士（元公証人）相談へ変更したが、公証人相談と比較して 11 件相談数が増えた。

また、弁護士（元公証人）相談と司法書士相談は、予約しているにも関わらず当日無断キャンセルが多い為、事前に念押しする必要性を感じる。

一般相談は依然として話をしたいだけ、という相談が多かったが、相談員より関係機関を紹介される等、心配ごと解決の糸口につながるケースもあった。

福祉サービス支援事業

事　業　名	福祉有償運送事業
事業内容	１．事業概要 車椅子や寝たきり等により、個人では公共交通機関や普通乗用車での外出に大きな制限、制約を受ける方々に対し、福祉車両による移動送迎サービスを行う。 ２．運行体制 （1）登録車両　3台 ホンダ・N-BOX　（定員3名／車イス車両） ホンダ・フリード　（定員5名／車イス車両） トヨタ・ハイエース　（定員9名／車イス・ストレッチャー兼用車両） （2）運転者人員　4名　（1種免許） ３．会員登録者　179名（平成29年3月31日現在） (1)身体障がい者　145名、要介護認定者　34名 (2)新規利用登録　23名 ４．運行実績　1,959名 【内訳】 4月・131名（内、身体障がい者106名、要介護認定者25名） 5月・143名（内、〃 123名、〃 20名） 6月・167名（内、〃 138名、〃 29名） 7月・150名（内、〃 132名、〃 18名） 8月・168名（内、〃 148名、〃 20名） 9月・152名（内、〃 124名、〃 28名） 10月・187名（内、〃 149名、〃 38名） 11月・171名（内、〃 137名、〃 34名） 12月・183名（内、〃 149名、〃 34名） 1月・156名（内、〃 134名、〃 22名） 2月・170名（内、〃 136名、〃 34名） 3月・181名（内、〃 150名、〃 31名）
課題および今後の方針	介護保険下では移動支援に制約があるため、医療機関への通院や買い物などの利用を希望する利用会員を中心に、送迎サービスを実施している。サービスの実施にあたっては安全運行を心がけており、担当者および運転手で連絡会議を定期的に開催し、業務改善に努めている。 また、平成28年度は更新登録申請の時期を迎えたため、必要書類の作成と北勢地区運営協議会の審査を受け、平成32年3月までの3年間の更新が可能となった。

福祉サービス支援事業

事　業　名	**車椅子等貸出事業**
事業内容	**1．車椅子が必要な方に対する無料貸出** （1）鈴鹿市内に在住の方に最長 3 ヶ月間を限度として車椅子の貸出を行う。 年齢制限等は設けておらず、また市外の方でも家族が市内在住であり、一時的に車椅子を必要とされる方について貸出を行っている。 ただし介護保険の認定を受け、車椅子貸与給付対象の方については原則として貸出は行わない。 （2）保有台数　174 台 （3）平成 28 年度　車椅子貸出状況
課題および今後の方針	利用者の中には介護認定を受けていない方や購入資金のない方などが、利用期間を超えて、貸出しを希望されることが多い。そのため 3 か月を過ぎたら一度返却してもらい、少し期間を空けて再度ご利用いただくように対応しているが、どのくらい期間を空ければいいのかは明確にしておらず、貸出しの延長利用に課題がある。また、利用者が死亡すると、返却されず放置されていることもあるため、管理運用についての改善が必要である。

	貸出件数	返却件数
4 月	26 件	31 件
5 月	28 件	33 件
6 月	21 件	21 件
7 月	23 件	18 件
8 月	23 件	32 件
9 月	21 件	23 件
10 月	31 件	25 件
11 月	33 件	33 件
12 月	26 件	23 件
1 月	20 件	29 件
2 月	20 件	24 件
3 月	37 件	36 件
合計	309 件	328 件

福祉サービス推進事業

事　業　名	**おもちゃ図書館の運営**

事 業 内 容

1．おもちゃ図書館運営事業

「発達の気になる子どもたちにおもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを」との願いから始まったボランティア活動であり、子どもたちがボランティアや保護者と気に入ったおもちゃを選び、楽しく遊ぶことができる機会（場所）を提供している。

・開館日　…　第1・3火曜日、第2土曜日

平成28年度利用状況

月	利用者数	貸出件数	ボランティア数	開館日数
4	14	1	11	3
5	10	0	9	2
6	5	0	7	3
7	14	9	13	3
8	15	8	8	2
9	11	2	11	3
10	8	2	7	2
11	9	0	12	3
12	21	5	12	3
1	2	2	3	2
2	10	2	10	2
3	24	10	6	3
合計	143	41	109	31

2．その他イベントの実施

・おもちゃ図書館お楽しみ会　（参加者63名）
　開催日：6月11日（土曜日）
　内　容：人形劇団『ししかばぶ』

・ふれあい広場鈴鹿（参加者121名）
　開催日：10月8日（土曜日）
　内　容：ふれあい広場鈴鹿内で来場者に玩具を開放

・おもちゃ図書館新年お楽しみ会（参加者38名）
　開催日：1月14日（土曜日）
　内　容：うきうきわくわく♪ぽんぽこ村　村長：松岡氏

課題および今後の方針

年々、利用者の年齢層が低年齢化しており、お楽しみ会の参加者数も減少しつつある。ボランティアの高齢化および担い手が不足しているため、新しい担い手探しを検討中である。

福祉サービス支援事業	
事　業　名	**一人暮らし高齢者給食サービスの実施**
事業内容	１．鈴鹿市内の一人暮らし高齢者に対し、食事を配食することにより、食生活の改善や健康増進を図るとともに、地域との交流を深め、生活での悩みや疎外感を軽減し地域生活を支えることを目的とする見守り事業の一つである。 ２．食事の配食については地区社協を中心として、ボランティア及び民生委員児童委員の協力のもと実施している。 ３．平成 28 年度実績 ・給食サービス　…　16 地区 国府・庄野・牧田・石薬師・白子・飯野・玉垣・若松・栄・合川・井田川・久間田・椿・庄内・一ノ宮・深伊沢 ＊平成 28 年度鈴峰は実施なし ・手作り給食サービス　…　3 地区 白子（寺家班）年 11 回 飯野　　年 4 回 井田川　　年 3 回 ・利用者数　…　735 名（13 名の減少）
課題および今後の方針	利用者数の減少については、民生委員改選に伴い給食サービスの長期休止者の確認作業を行った結果である。しかし、新規利用者数については 100 名以上増加しており、地域での本事業に対する関心の高さを実感するとともに、近年、多様化する地域の福祉課題にも住民同士で支え合っていけるよう、地区社協や民児協、ボランティアがつながる場としての本事業の有効性を感じる。 また、県下全域で、衛生について厳しくなってきている現状の中、手作り給食の衛生対策について、事務局として見直しが必要である。今後、手作り給食実施地区対象に、検便実施を義務化していき、検便費助成についても同時に設けていく方向。

福祉サービス支援事業

事　業　名	母子父子寡婦家庭・児童支援事業

事業内容

1．児童遊園地遊具設置補助

各地区の自治会が管理している児童遊園地及び公園遊具の設置・修繕に対し、1 地区市民センター管内につき 1 ヶ所最高 10 万円を限度として助成を行っている。

地　区	自治会	金額（円）	主な内容
玉垣	肥田	100,000	ブランコ設置
牧田	算所	100,000	フェンス取替
天名	御薗	100,000	遊具塗装
鈴峰	長澤	100,000	ベンチ取替
飯野	安塚	100,000	ブランコ修繕
牧田	平田	75,600	電柱傾き修繕

牧田地区に関しては、平成 27 年度申請した工事が長引き平成 28 年度での助成となったため、2 か所の申請を承認している。

合計 6 件　　575,600 円

2．母子父子寡婦福祉の推進

一人親家庭を対象に開催された交流事業や会報誌の発行、研修会への参加等に対して助成を行った。

課題および今後の方針

共同募金を財源とし、地域の母子父子寡婦・児童福祉事業に対し助成を行っており、児童遊園地遊具設置補助事業については、児童遊園地を管理する自治会の費用負担の軽減にもつながっている。本助成事業についての情報提供を継続して行い、助成を必要とする自治会等に活用していただけるよう促していく。

福祉サービス支援事業	
事　業　名	**生活困窮者に対する資金の貸付事業**
事業内容	貸付事業については、制度で対応できないケースや事業以外の支援が必要なケースが多く、より高い専門性やスキルが求められている。また、貸付滞納者への連絡、追跡調査などを三重県社会福祉協議会と共に行っている。 **１．福祉資金（実施主体・鈴鹿市社協）** ・貸付件数　39 件・620,000 円 **２．生活福祉資金（実施主体・三重県社協）** （1）生活福祉資金 低所得世帯・高齢者世帯・障がい者世帯を対象に民生委員の協力のもと、療養費用・転宅費用・開業資金・修学費用等の貸付を行う。 （申請の際には、所得基準を設けているほか、他制度の優先などの基本事項がある） ＊貸付実績　1 件、　貸付総額　110,000 円 （2）緊急小口資金 緊急かつ一時的に少額の資金（10 万円を限度とする）が必要な利用者に対し、貸付を行う。 ＊貸付実績　24 件、　貸付総額　1,810,000 円 （3）総合支援資金 離職中の方を対象に、生活費用のほか、賃貸住宅への入居費用などの貸付を行う。また制度の特徴として、自立支援相談事業の利用、行政が実施する住居確保給付金との併用を基本としている。 ①生活支援費　＊貸付実績　0 件、　貸付総額　0 円 ②住宅入居費　＊貸付実績　0 件、　貸付総額　0 円 ③一時生活再建費　＊貸付実績　1 件、　貸付総額　177,000 円 （4）臨時特例つなぎ資金 住居のない離職者で、公的給付制度又は公的貸付制度の申請を受理されている方に対し、貸付を行う。 ＊貸付実績　2 件、　貸付総額　200,000 円 **３．生活困窮者緊急食糧提供事業** 生活困窮世帯に対し緊急的に食糧を提供することにより、当該世帯の生活維持及び再建に向けた相談支援を推進することを目的とする。 ＊提供件数　75 件
課題および今後の方針	福祉資金・生活福祉資金の貸付件数は減少しているが、貸付にいたらない相談や、食糧提供希望の相談が増加している。特に食糧提供希望の相談は、「食べるものがなく社協に来たら食糧がもらえると聞いた」と言われる相談者が多く、事業の周知、制度の説明を十分に行う必要がある。

福祉サービス支援事業

事　業　名	**行旅人・ホームレス対策事業**
事業内容	**１．行旅人給付実績　　15 件　7,500 円** 行旅人（行旅中の者で所持金品がなく、かつ救護者がいない者）に交付金を支給することにより、当該行旅人の援護を行うことを目的とする。 行旅人旅費は、一律 500 円と定め、請求は一度のみとする。 【申請場所内訳】 （1）鈴鹿市役所　　14 件 （2）地区市民センター　　0 件 （3）社会福祉センター　　1 件 **２．行旅人治療費給付実績　　4 件　90,736 円** 行旅人がなんらかの理由により救急車で医療機関に搬送され、応急診療を受けたが、所持金がなくかつ法の援護の対象とならない場合に医療費の給付を行う。 給付の方法は、現物給付によるものとし、医療機関が提出する請求書に基づき精査し行うものとする。 【申請医療機関内訳】 （1）鈴鹿回生病院　　2 件 （2）高木病院　　1 件 （3）村瀬病院　　1 件 **３．ホームレス自立支援事業　　0 件　0 円** 市内に居住するホームレス（又はホームレスとなる可能性のある者）に対し、自立促進を目的として相談及び応急的に金品及び現物を給付（貸付）する。 【対応場所内訳】 （1）社会福祉センター　　0 件 （2）市役所　　0 件 【自立支援費内訳】 （1）食費　　0 件　0 円 （2）就労支援費　0 件　0 円 （3）旅費　　0 件　0 円
課題および今後の方針	失業等により、路上生活を余儀なくされたホームレスを中心に相談支援を受け付けており、公的制度や施策の利用支援を行っている。しかし、相談者が自立に向け前向きな気持ちを持っても順調に進むケースは少なく、関係機関と連携して支援をし、相談者の気持ちが低下しないよう注意する必要がある。

ボランティアセンター機能の充実	
事　業　名	**ボランティア登録**
事業内容	ボランティアセンター（個人ボランティア、ボランティアグループ） 登録状況（平成 29 年 3 月末現在） **1．個人ボランティア** （1）登録者数　…　241 名 （2）学生から定年退職を迎えた世代に渡り、幅広い年齢層の登録がある。 （3）活動内容 高齢者・障がい者の外出支援や施設での傾聴支援、また託児や災害支援など多岐に渡る。 **2．ボランティアグループ** （1）登録団体　…　102 団体 （2）団体の種別 ・高齢者福祉分野（サロンや施設支援等） ・障がい者福祉分野（サロンや施設支援等） ・児童、母子分野（サロンや施設支援、託児等） ・施設、団体主催のイベント支援 ・上演、披露分野（楽器や手品、読み聞かせなど） ・国際交流、協力分野 ・自然環境保全分野 ・動物愛護 ・災害支援分野 ・その他 **3．『鈴鹿いきいきボランティアポイント』制度** （1）目　　的　…　介護予防事業の一環として、ボランティア活動を通して、地域貢献や社会参加をすることで、より元気になることを目的としている。 （2）登録者数　…　102 名（鈴鹿市内に居住されている介護保険第 1 号被保険者（65 歳以上）の方で、介護保険料の滞納がなく、介護認定を受けていない方対象） （3）受入れ施設 …　①ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ(認知症対応型共同生活介護)(17 施設) ②ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ(通所介護事業所)(23 施設)
課題および今後の方針	ボランティア通信の内容を充実し、ボランティアグループへの加入メンバーの募集等も掲載していく。掲示場所について現在、2 つのショッピングセンターに承認していただいており、今後は掲示先を増やし、市民の方にボランティアについて気軽にふれていただく。 また、ボランティアに関係する団体（鈴鹿医療科学大学ボランティアセンター、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、行政、ボラ連、NPO 団体等）のネットワークの強化に努め、ボランティアセンターの充実を図っていきたい。 いきいきボランティア制度に関しても周知活動を広げていき、登録者及び受け入れ施設の数を増やしていきたい。

ボランティアセンター機能の充実	
事　業　名	**ボランティアスクール・精神保健福祉講座の開催**
事業内容	**１．精神保健福祉ボランティア研修会** **「ひきこもり理解のための講演会」** ・日　時：平成 29 年 3 月 13 日（月） ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター ・内　容：精神保健福祉ボランティア養成講座の受講生減少により、平成 28 年度は単発の研修会を実施。特に、精神保健福祉の中でも「ひきこもり」に絞り実施。 （1）テーマ：「鈴鹿市の現状について(ひきこもりに対する相談)」(20 分) 講　師：障害者総合相談支援センター　あい 基幹支援相談員　南川 久美子　氏 （2）テーマ：「ひきこもりの支援について」(80 分) 講　師：特定非営利活動法人　オレンジの会 理事　社会福祉士　鈴木 美登里　氏 ・受講者：38 名
課題および今後の方針	平成 28 年度実施の「ひきこもりに理解のため講演会」では、活動計画でも実施すべき項目であり、市民の方にひきこもりに対する知識や支援方法等を学んでいただいた。また、研修会開催を通して関係機関とのつながりも深まった。 平成 29 年度はボランティアスクールの内容を、認知症支援ボランティア、災害ボランティアコーディネーター、精神保健福祉分野等に絞って開講し、専門性の高い人材の養成を目指す。

ボランティアセンター機能の充実

事　業　名	ボランティアセンター事業
事業内容	**１．福祉講座の開講** 目的：広く地域住民に対し、ボランティア活動中の方やこれからボランティア活動を始めたい方への知識や技術習得のための講座として開催する。また、鈴鹿市内で活動するボランティアグループを紹介し、地域の社会資源をサポートしていただける人材の確保を目的とする。 手話講座 ・開講時期　…　6月～7月・全4回 （毎週木曜・13時30分～15時30分） ・受講者数　…　29名 点訳講座 ・開講時期　…　6月～2月・全18回 （第1･3木曜・13時30分～15時30分） ・受講生数　…　9名 音訳講座 ・開講時期　…　6月～3月・全18回 （第2･4火曜・13時30分～15時30分） ・受講生数　…　9名 **２．鈴鹿市ボランティア代表者会議の開催** ・日　程：平成28年4月20日・9月6日 ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター ・内　容：ボランティアセンターに登録するボランティア団体の代表者を対象に会議を開催し、情報交換等を行い、今後の活動につなげた。 ・参加者：60名 **３．鈴鹿市ボランティア連絡協議会との協働** ・鈴鹿市ボランティア連絡協議会総会（4月20日） ・鈴鹿市ボランティアの集い（2月25日）＊参加者55名 ・先進地視察研修（湯の山介護老人保健施設、菰野町ボランティア連絡協議会）（9月26日）＊参加者39名 ・甲賀市社会福祉協議会・ボランティア連絡協議会の視察受け入れ（34名） ・役員会（年3回)、運営委員会（年9回）の出席 ・その他：アルミ缶の回収等

	４．子ども情報誌スキップへの記事掲載 ・掲載目的：子ども、保護者に対しての地域福祉・社協活動の啓発 ・発行部数：各号約 20,000 部 ・配 布 先：市内小学生全員・銀行・ショッピングセンター等 ・内　　容：春号（ワークキャンプの案内） 夏号（認知症について、認知症キッズサポーターの紹介） 秋号（赤い羽根共同募金紹介） 冬号（福祉探検隊の案内） **５．ふくし探検隊** ・目　的：親子で福祉についての話し合いをするきっかけづくり、思いやりと支え合いの心について考えてもらうことを目的に開催。今年度は「介助犬・災害救助犬について」をテーマとし、講師として NPO 法人日本動物介護センター職員と介助犬 1 頭を招き、講演会と実演を行った。 ・開催日：平成 29 年 1 月 28 日（土） ・講　師：NPO 法人日本動物介護センター ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター ・参加者：親子 12 組　29 名 **６．要約筆記体験講座** ・目　的：聴覚障がい者のよきパートナーとなり、要約筆記に携わる人材を養成するため、また、難聴の方や聞こえにくい方も参加対象とし、要約筆記の周知、活用にもつなげるために開催。 ・開催日：平成 29 年 1 月 14 日(土)　13:30～16:00 ・場　所：鈴鹿市社会福祉センター　2 階　大広間 ・申し込み者：15 名 **※積雪のため中止** **７．ボランティア活動への助成** 鈴鹿市ボランティアセンターに登録しているボランティアグループで福祉向上を目的とした活動が計画的、継続的に行われているグループに対して、15,000 円を上限として助成を行った。
課題および今後の方針	各福祉体験講座やふくし探検隊等の参加者が、年々減っている現状である。 福祉体験講座については、講師やボランティアグループと協議し、現状や今後について、見直しが必要である。また、周知方法についてもインターネット等を使用し、周知を行う。 事業の啓発の方法、テーマの設定、参加形態等協議を重ねて、魅力ある事業に変えていく方向。

ボランティアセンター機能の充実	
事　業　名	**ボランティアコーディネーターによる調整**
事業内容	**１．上演・披露ボランティア（福祉施設での楽器演奏など）** ・コーディネート件数　…　37 件 **２．イベント支援ボランティア（福祉施設の夏祭りなど）** ・コーディネート件数　…　26 件 **３．託児ボランティア（福祉団体のイベントなどでの託児）** ・コーディネート件数　…　5 件 **４．衣類リフォームボランティア（高齢者、障がい者の日常生活支援）** ・コーディネート件数　…　22 件 **５．自助具ボランティア（高齢者、障がい者の日常生活支援）** ・コーディネート件数　…　28 件 **６．住環境ボランティア（高齢者、障がい者の日常生活支援）** ・コーディネート件数　…　5 件 ＊合計件数　…　123 件 ボランティアセンター通信発行部数　…　約 600 部（月 1 回発行） ・送付先　…　個人ボランティア、ボランティアグループ、学校、施設、地区社協、にこちゃん募金・赤い羽根共同募金協力企業、ふれあい広場鈴鹿協力団体等
課題および今後の方針	平成 27 年度課題であった、自助具・住環境の依頼件数の減少については、チラシ配布やケアマネジャー向けの研修会での紹介による周知の徹底により、増加した。日常生活の中で、不自由を感じているが、解決できない方への支援活動の周知は継続して行っていく必要がある。 また、ボランティア通信内容の拡充をし、各施設に対してボランティア支援内容や申込みについての周知とコーディネートをきめ細かく行っていきたい。

ボランティアセンター機能の充実

事　業　名	災害ボランティアセンター事業
事業内容	**1.『災害ボランティアセンター連絡会』開催** ・目　　的　災害発生時に復旧・復興活動を円滑に進めるため、平時から鈴鹿市災害ボランティアセンターに関る関係機関・団体の連携を深めていくことを目的とする。 ・開 催 日　平成 28 年 6 月 15 日、12 月 8 日（計 2 回） ・連絡委員　〈委員長〉三重大学　准教授　川口淳氏 〈委　員〉鈴鹿市防災危機管理課、健康福祉政策課、ボランティア連絡協議会、鈴鹿青年会議所、鈴鹿商工会議所、 鈴鹿地区社会福祉協議会、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、NPO 法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿、鈴鹿市災害ボランティアコーディネーター、障害者相談支援センターあい、三重県社会福祉協議会 **2.『鈴鹿市災害ボランティアセンター設置運営訓練』の実施** ・目　　的　大規模災害時に、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営を各関係機関と連携しながら円滑に進めることを目的とする。 ・開 催 日　平成 29 年 3 月 5 日（日） ・場　　所　鈴鹿市社会福祉センター、鈴鹿市労働福祉会館 ・参 加 者　105 名 ・協　　力　鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会 三泗鈴亀地区社会福祉協議会 **3.『三泗鈴亀地区災害ボランティアセンター広域連携強化事業』研修会の実施** (1)「三泗・鈴亀地区社会福祉協議会職員向け研修会」 ・目　　的　定期的に会議を開催し、情報共有等を行うことで、平時からの連携体制を構築するため。また、広域で連携することの意義や、各社協職員のスキルの底上げを目的に、実施を行った。 ・講　　師　熊本県社会福祉協議会 施設福祉課長 江口 俊治 氏 菊池市社会福祉協議会 福祉課地域福祉係 日置 治尊 氏 ・テ ー マ　「熊本地震における災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ運営の対応と課題」 ・対　　象　三泗・鈴亀地区社会福祉協議会職員 ・開 催 日　平成 29 年 2 月 9 日

・場　　所　　亀山市総合保健福祉センターあいあい
・参 加 者　　66 名

(2)「鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会向け研修会」
・目　　的　　熊本地震における災害ボランティアセンターの設置・運営状況、関係団体・広域の連携について研修を実施することによって、災害ボランティアセンター設置・運営に関するスキルの向上や関係団体との連携強化を図る。
・講　　師　　熊本県社会福祉協議会　施設福祉課長 江口 俊治 氏
菊池市社会福祉協議会 福祉課地域福祉係 日置 治尊 氏
・テ ー マ　　「熊本地震における災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ運営の対応と課題」
「災害救援ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動と災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰの設置運営」
・対　　象　　鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会
三泗鈴亀地区社会福祉協議会職員（災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ担当）
第 3 次鈴鹿市地域福祉活動計画 第 3 部会委員
・開 催 日　　平成 29 年 2 月 10 日 AM
・場　　所　　鈴鹿市労働福祉会館
・参 加 者　　55 名

(3)「三泗・鈴亀地区災害ボランティアセンター担当者向け研修会」
・目　　的　　三泗・鈴亀地区災害ボランティアセンター担当職員のみを対象とし、熊本地震において災害ボランティアセンター運営の具体的な内容や課題と対応を学び、より効果的な広域連携に繋げるために実施を行った。
・講　　師　　熊本県社会福祉協議会　施設福祉課長 江口 俊治 氏
菊池市社会福祉協議会 福祉課地域福祉係 日置 治尊 氏
・内　　容　　質疑応答による形式（事前に質問事項を提出）
・対　　象　　三泗鈴亀地区社会福祉協議会職員（災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ担当）
・開 催 日　　平成 29 年 2 月 10 日 PM
・場　　所　　鈴鹿市社会福祉センター
・参 加 者　　11 名

4．各地域との連携事業の実施

(1)「各地域での防災訓練等への参加」
・目　　的　　平常時より地域の防災訓練やイベント等に参加すること　により、災害ボランティアセンターと地域との支援体制強化を図ることを目的とする。
・開催日、場所
①郡山地区防災訓練参加・・・・7 月 24 日・郡山公民館
②旭が丘地区防災訓練参加・・・9 月 17・旭が丘小学校

	③鈴鹿市総合防災訓練参加・・・10 月 16 日 ④稲生地区防災訓練参加・・・・11 月 6 日・稲生小学校 ⑤飯野地区総合防災訓練参加・・2 月 26 日・創徳中学校 ・参 加 者　　各約 10 名 ・協　　力　　鈴鹿市災害ボランティアコーディネーターズ (2)「地域と災害ボランティアセンターとの連携の在り方」研修会 ・目　　的　　平時より地域と災害ボランティアセンターの連携体制を整えておくことで、災害時により効果・効率的にボランティアコーディネートできることを目的とする。 ・講　　師　　①三重大学大学院工学研究科　准教授　川口　淳　氏 ②鈴鹿市災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰｽﾞ 成川 達 氏 ・テ ー マ　　①座談会「災害時における地域に困りごとについて」 ②「災害ボランティアについて」 ・対　　象　　鈴鹿市地区社会福祉協議会 第 3 次鈴鹿市地域福祉活動計画 第 3 部会委員 ・開 催 日　　平成 29 年 1 月 19 日 ・場　　所　　鈴鹿市労働福祉会館 ・参 加 者　　約 35 名
課題および今後の方針	地域と災害ボランティアセンターとの連携体制がしっかり整っていない現状である。そのような状況の中、平成 28 年度『地域と災害ボランティアセンターとの連携の在り方研修会』を実施し、平成 29 年度は、申込み地区（9 地区）対象に、『災害ボランティアコーディネーター（地域版）養成講座』を実施し、より一層の地域との連携強化を図っていく。また、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部や鈴鹿青年会議所とも、研修会や訓練会等を通して、連携を深めていく。

社会福祉センターの管理運営

事　業　名	社会福祉センターの維持管理・バスの運行

事業内容

1．　平成 28 年度　社会福祉センター貸館・利用状況

（1）福祉センター開館日数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
本館開館日	23	23	25	25	26	23	25	26	21	19	19	25	280
団体棟開館	28	26	27	28	27	27	30	28	24	23	22	28	318
娯楽室	20	19	22	20	22	20	20	20	17	18	20	22	240

（2）□福祉センター利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
大広間	12	14	19	22	17	11	18	16	19	5	19	24	196
中会議室	21	18	16	11	14	16	12	12	9	12	9	7	157
小会議室	3	6	7	6	4	8	10	9	3	5	6	8	75
和室	11	9	19	9	3	8	10	12	7	6	9	9	112
図書室	1	1	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	8
団体棟	69	84	91	72	68	77	76	81	66	48	70	78	880

（3）利用人数内訳

	娯楽室利用人数	センター利用人数	合計
4 月	1,245	1,651	2,896
5 月	1,136	1,626	2,762
6 月	1,321	1,820	3,141
7 月	1,139	1,558	2,697
8 月	1,257	1,267	2,524
9 月	1,267	1,649	2,916
10 月	1,182	1,610	2,792
11 月	1,262	1,278	2,540
12 月	1,065	1,367	2,432
1 月	1,133	969	2,102
2 月	1,271	1,503	2,774
3 月	1,294	1,700	2,994
計	14,572	17,998	32,570

（4）大型バス・マイクロバス運行状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回　数	15	18	20	15	15	15	28	19	16	6	11	13	191
（　内　訳　）													
社　協	2	1	2	2	5	1	11	5	1	1	2	2	35
鈴鹿市	1	0	0	1	0	0	0	2	2	1	1	0	8
老人クラブ	3	4	5	9	2	2	1	0	3	2	5	3	39
その他（団体）	8	11	10	3	6	10	15	10	8	2	3	7	93
施　設	1	2	3	0	2	2	1	2	2	0	0	1	16

課題および今後の方針

福祉センターの貸館利用及び福祉バスの運行については、3 か月前の 1 日より先着順で申込を受付けていたが、平成 28 年 7 月より多くの方にセンターを有効活用していただくために、毎月 1 日 10 時より申込を受付ける順番を決める抽選を行うこととした。その結果利用者が毎月 1 日に朝早くから並ぶという負担が軽減した。今後も続けていきたい。

介護保険・障害者自立支援事業

事　業　名	訪問介護事業所の運営・総合支援法（居宅介護）地域生活支援（移動支援）

事業内容

１．訪問介護事業所の運営

（1）介護保険下におけるホームヘルプ事業（介護予防含む）の実施

＊派遣延べ数 629 回　　契約者数　50 名（3 月末）

２．支援事業

（1）障害者自立支援法に基づく居宅支援事業（身体・知的・精神障害・同行援護）の実施

＊派遣延べ数 919　回　　契約者数　76 名（3 月末）

（2）地域生活支援事業（移動支援）

＊派遣延べ数 117　回　　契約者数　21 名（3 月末）

（3）障害者特定相談支援事業

＊契約数　83 名（3 月末）

契約者数	訪問介護		障害者総合支援法 居宅介護事業					地域生活支援事業
	介護予防	介護	身体障害	知的障害	精神障害	同行援護	相談支援	移動支援
4 月	23	37	19	14	19	24	68	9
5 月	21	36	18	15	19	24	70	9
6 月	21	36	18	14	16	24	72	8
7 月	19	35	17	15	19	24	73	12
8 月	17	38	24	14	17	24	76	10
9 月	17	35	22	14	21	24	80	9
10 月	16	35	23	15	18	24	81	12
11 月	16	35	19	15	18	24	80	11
12 月	17	34	19	15	18	24	80	9
1 月	17	32	22	13	18	24	81	10
2 月	17	31	19	15	18	23	81	10
3 月	17	27	20	14	19	23	83	8
合　計	218	411	240	173	220	286	925	117

課題および今後の方針

平成 28 年度は介護ソフトの更新に伴って ICT を使ったシステムを導入し、シフト管理や介護記録作成、職員の稼動管理を行い、業務効率化に取り組んだ。今後はさらに事務負担にかかる時間を削減し、利用者へのサービス向上に努める。

利用者の入所や死亡が相次いだため減収となったが、平成 29 年度は新規契約を獲得し、収入増を目指していく。

介護保険・障害者自立支援事業

事　業　名	居宅介護支援事業所の運営

事業内容

介護保険事業

１．ケアプラン作成

・要介護・要支援認定を受けた方が、在宅サービスを利用する場合、居宅介護支援事業所と契約後、利用者様やご家族等の状況把握や希望をうかがい、在宅での生活を自立して行えるようご本人に合ったケアプランを作成。

＊平成 28 年度　利用述べ件数　1,248 件（平成 27 年度 1,428 件）

２．介護保険更新申請代行

３．認定調査

・鈴鹿亀山地区広域連合及び他市町より、認定調査の受託を受け、要介護認定調査の研修を修了した介護支援専門員が、訪問調査を行っている。

＊平成 28 年度 認定調査延べ件数　344 件（平成 27 年度 252 件）

H28 年度	ケアプラン		認定調査	
	要介護	介護予防	鈴亀広域	他市町
4 月	102	8	15	1
5 月	101	6	29	0
6 月	102	6	37	0
7 月	100	6	29	0
8 月	104	6	30	0
9 月	101	6	30	0
10 月	99	6	39	1
11 月	97	6	28	0
12 月	94	6	22	1
1 月	90	6	28	0
2 月	93	5	25	0
3 月	91	7	29	0
合計	1174	74	341	3
	1,248		344	

課題および今後の方針

平成 28 年度は、正規職員 1 名退職の為、ケアプラン作成数は減少している。

平成 28 年 4 月より居宅介護支援事業所は特定事業所加算Ⅲ（200 単位）に変更となり、減額となった。認定調査については、平成 28 年度は調査員 1 名を増員し、受託件数が増加している。平成 28 年度より、特定事業所加算を取得している事業所は、介護支援専門員実務研修の受け入れが必要となり、1 名の研修受け入れを行った。今後は、研修内容の詳細を検討していく必要がある。また、介護支援専門員の質の向上のために、引き続き研修等参加し、研鑽していく。平成 29 年度より鈴鹿市も介護予防・日常生活支援総合事業が始まるため、随時制度の情報を収集し対応していく。

受託事業

事　業　名	日常生活自立支援センターの運営

事業内容

1．事業概要

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断力が不十分な方で、日常生活を営む上で必要となる福祉サービス等の利用が自己の判断で行うことが困難な方を対象に、自立した地域生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助や日常生活上の消費契約、金銭管理等を行う事業として実施している。

2．実施体制

・専門員　3名、兼務職員　2名、事務補助員　1名
（相談支援、利用計画の立案等を担当）

3．生活支援員関係

・生活支援員登録人数　26名
・生活支援員活動人数　19名
・生活支援員支援回数　延べ　5,088回

4．利用実績（平成29年3月31日現在）

	利用区分	相談件数	契約件数	解約件数
1	認知症高齢者	210件	14件	9件
2	知的障がい者	1,457件	7件	7件
3	精神障がい者	1,525件	10件	6件
4	その他	3件	1件	0件
	合計	3,195件	32件	22件

5．利用件数（平成29年3月31日現在）

	利用区分	利用件数
1	認知症高齢者	36件
2	知的障がい者	47件
3	精神障がい者	55件
4	その他	11件
	合計	149件

課題および今後の方針

平成27年度より継続した課題として、生活支援員の高齢化が挙げられ、平均年齢が65歳以上となっている。また男性の生活支援員が少なくなり、ケース対応に苦慮する場面が多くなっている。本会では市民後見人の養成を平成30年度に予定しており、受講者の活動の場の1つとして、生活支援員の登録も検討しており、課題解消に向けた取り組みとして進めていく。

受託事業	
事　業　名	**地域包括支援センターの運営**
事業内容	**1．介護予防マネジメント事業　（二次予防事業）** （1）二次予防教室アプローチ数　電話：185 名/訪問：66 名 （2）運動機能参加者数：44 名/口腔機能参加者数：18 名 **2．地域ネットワーク構築業務** （1）地域ケア圏域会議の出席（進行役、事例提供者） （行政、医療、介護のネットワークの構築／地域包括ケアの推進） （2）鈴亀地区居宅介護支援事業所・介護支援専門員協議会事務局 74 事業所 200 名の会員 （総会、幹事会 12 回、研修会 4 回、医療勉強会 4 回の開催） （3）鈴亀地区介護支援専門員協会総会、研修会役員会開催支援 事例研究会開催支援　（進行取りまとめ役） （4）地域個別ケア会議の開催（随時） （5）鈴鹿市地域密着型施設（中部圏域内）運営推進会議への出席 愛すみよし苑（6 回）・悠久の里（6 回）・GH かなしょうず園（6 回） かがやきの杜（6 回/広域連合対応）楽家生（5 回）・みっかいち（6 回） グループホーム国府（6 回）、おおえのき（2 回）、つぼみ（2 回） はらから（2 回）、レッツ倶楽部（2 回）リフィットプラス（1 回） （6）鈴亀地域包括支援センター連絡会議の開催事務局　開催（6 回） （亀山市、鈴鹿市長寿社会課、保護課、健康福祉政策課、健康づくり課、 広域連合、5 包括） （7）精神障がい者アウトリーチ選定委員会出席（12 回）包括持回り （8）鈴鹿市地域在宅医療ケアシステム運営会議出席 （会議 4 回、研修会 3 回） （9）鈴鹿中部地域包括支援センターだよりの発行（4 回） （10）民生委員・児童委員定例会出席（国府、玉垣、飯野、東部地区） （11）鈴鹿市在宅医療・介護連携支援センター検討委員会出席 （12）医師会在宅登録医会出席（12 回） （13）三職種（主任 CM、保健／看護師、社会福祉士）会議開催（各 12 回） **3．鈴鹿（(4)(5)は亀山も）市内地域包括支援センターとの合同事業** （1）介護者の集いの開催（年 4 回） （2）市報折込み地域包括支援センターだより（年 4 回） （3）鈴鹿市救急フェアへの包括ブースの出展 （4）介護保険事業所向け研修会の開催 （5）地域包括支援センター開設 10 周年記念講演会の開催（400 名）

４．介護予防普及啓発事業

（1）すごろく作品展の開催：出展数 108 点／最高齢 95 歳
（在宅高齢者のいきいき活動の発表の場の提供）

（2）介護予防体操「すごろく音頭」の普及活動

（3）出前講座（認知症・介護予防・健康促進等）
（自治会、地域住民、老人会、サロン、学校、ボランティア団体等）

（4）認知症サポーター養成講座開催（18 回講座／養成数 724 名）
（自治会、民生委員、住民、児童・学生、企業、JA、介護事業所等）

（5）新たな周知活動の展開（インターネットの活用）
（ホームページ年間アクセス数：5,103 件、
フェイスブック閲覧数：16,471 件）

５．高齢者虐待防止及び虐待対応

（1）日常生活自立支援事業の活用個別支援

（2）成年後見制度の活用個別支援

（3）高齢者虐待への対応支援

６．消費者被害防止

（1）地域の出前講座での啓発
（自治会、地域住民、老人会、サロン等）

（2）消費者被害への対応支援

７．包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

（1）ケアマネジャーに対する個別指導・相談業務
（支援困難事例などへの指導・助言等ケアマネジャーへの個別支援）

（2）地域個別ケア会議の開催

（3）三重県介護支援専門員実務研修会演習指導

（4）三重県介護支援専門員資質向上研修指導

（5）鈴鹿市介護支援専門員研修会の開催

（6）介護福祉士講座・介護支援専門員講座等への講師派遣

（7）ケアプラン点検会議での助言支援

（8）事例研究会での助言支援

（9）三重県介護支援専門員鈴亀支部への協力支援

８．介護予防支援事業

（1）**包括プラン**
（利用申し込み受付、契約締結、届出、アセスメント、計画書作成、担当者会議、計画書の交付、サービス提供連絡調整、モニタリング、評価、給付管理業務、介護報酬請求事務）
＊新規：49 件　＊継続：1,862 件　＊合計：1,911 件

	(2) 業務委託プラン 委託契約、計画内容の確認、アドバイス、国保連への請求、委託先への支払事務 ＊新規：82 件　＊継続：1,714 件　＊合計：1,796 件 **９．総合相談業務** （新規相談者のみカウント、継続相談者・在宅訪問数は多数） (1) 平成 28 年度新規相談者：617 件 (2) 平成 28 年度新規訪問数：319 件
課題および今後の方針	介護保険制度が開始されてから 17 年が経過し、制度の成熟化が進む一方で、人口減少、家族・地域社会の変容により、従来型の縦割りのシステムに課題が生じている。具体的には、問題の多様化・複雑化によって、対応困難なケースが増加しており、地域包括支援センターにも高齢者以外の相談対応が日常的に迫られるようになってきている。 複雑化するケースに対応するための一つの手段として、包括支援センター業務と、介護予防支援事業業務についての役割分担を進め、相談体制を充実させていく。

受託事業

事　業　名	鈴鹿市療育センターの運営

事業内容

１．児童発達支援事業・日中一時支援事業

子どもの情緒安定、日常生活における基本的動作の指導、集団生活への適用訓練及び機能回復訓練を行い、生活環境に適応し得る能力を身につけることを目的に療育活動を実施している。（合計 208 名）

・情緒・知的	（りす組）	2 組～15 組	（14 クラス）	＊週 1 回（ 133 名）
・肢体	（うさぎ組）	1 組	（1 クラス）	＊週 4 回（ 24 名）
・未就園児	（こあら組）	1 組～ 2 組	（2 クラス）	＊週 2 回（ 16 名）
・未就園児	（こあら組）	3 組～ 4 組	（2 クラス）	＊週 3 回（ 23 名）
・未就園児	（こあら組）	5 組	（1 クラス）	＊週 1 回（ 7 名）
・未就園児	（ととろ組）	1 組	（1 クラス）	＊月 2 回（ 5 名）

２．交流保育

（1）保育所（園）での集団での生活体験、地域との交流　（週 1 回）
　　実施保育所（園）　…　白子、牧田、玉垣、箕所（合計 9 名）

３．診察と訓練指導

（1）草の実リハビリテーション医師による診察（5 月 24 日・12 月 6 日）（延べ 16 名）
（2）草の実リハビリテーション訓練士による訓練と指導
　　理学療法　…　5 月 10 日、10 月 25 日、3 月 7 日（延べ 34 名）
　　作業療法　…　6 月 7 日、12 月 13 日（延べ 6 名）
（3）感覚を刺激する療育（感覚統合）の指導（伊勢市風の広場）（年 6 回）（延べ 54 名）
（4）訓練士（常勤）による訓練
　　言語聴覚療法（延べ 2,448 名）、作業療法（延べ 555 名）理学療法（延べ 575 名）、動作法（延べ 289 名）
（5）臨床心理士による相談（延べ 12 名）、発達検査（延べ 58 名）
（6）訓練士によるベルホームへの訓練指導
　　言語聴覚療法（延べ 12 名）、理学療法（延べ 83 名）、動作法（延べ 45 名）

４．放課後等デイサービス事業

センターの修了児に対して、少人数グループ（8 グループ）または、個別で専門職による
多角的な視点での療育や訓練を行い、成長と発達を促す。（延べ 1,469 名）
（1）小学校 4～6 年生への支援（5 月 7 日、8 月 6 日、12 月 3 日）（延べ 59 名）

５．保育所等訪問支援事業

保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校等を専門職員が訪問し、スタッフと連携し支援を行うことで、保育所等への安定した利用を促す。
（1）利用児や卒園児の通う保育所・園、幼稚園、小学校への訪問　（合計 53 件）

６．行事

（1）園外療育（うさぎ組･こあら組）
　　神戸公園　（こあら：5 月 12 日、うさぎ：5 月 20 日）（参加者 50 名）
　　中部国際空港セントレア(うさぎ：10 月 6 日,こあら：10 月 18 日、11 月 4 日)(参加者 61 名)
　　名古屋市科学館（うさぎ：3 月 16 日）（参加者 19 名）
　　神戸公園（こあら：3 月 16 日、3 月 17 日）（参加者 52 名）
（2）夕涼み会（7 月 31 日開催）
　　本田技研労働組合の協力により、利用児や卒園児を招き夏祭りを実施。
　　模擬店、花火、大道芸人（わくわくブーブー）
　　＊参加者（大人 261 名・子ども 249 名、ボランティア 45 名）
（3）療育研修会
　　療育を通して課題をもった子どもたちの支援の仕方を市内の保育士、幼稚園教諭、介助関係機関の職員等が、共に学び理解を深めるために実施。
　　＊第 1 回（8 月 5 日）（参加者 51 名）　＊第 2 回（12 月 26 日）（参加者 44 名）
（4）保護者向け研修会
　　発達の気になる子の子育てについて、体験談を通して保護者と学び、理解を深めるために実施。
　　＊第 1 回（6 月 22 日）（参加者 18 名）　＊第 2 回（1 月 18 日）（参加者 11 名）
（5）歯科検診、ブラッシング指導（10 月 27 日）（31 名）
（6）修了式　　うさぎ組（3 月 21 日）修了児 1 名、終了児 1 名

（7）お別れ会　　りす組（3 月 9 日・3 月 13 日・3 月 14 日・3 月 17 日）修了児 36 名

こあら組（3 月 16 日・3 月 17 日）終了児 20 名

7．施設見学・研修

（1）施設内研修会、県内外各専門研修会

8．関係機関との連携

（1）三重県障害児通園施設連絡協議会
（2）三重県障害者自立支援協議会人材育成検討部会（相談支援従事者研修部会講師派遣）
（3）三重県障害者総合相談支援センター（サービス管理責任者等研修講師派遣）
（4）三重県相談支援体制整備事業に係る圏域アドバイザー会議
（5）障がい児等療育相談支援事業連絡協議会
（6）特別支援学校（杉の子・城山・きらら学園）
（7）医療機関（三重大学附属病院・三重病院・三重中央病院・総合医療センター・あすなろ学園）
（8）鈴鹿市（子育て支援課・鈴鹿市保健センター）
（9）鈴鹿市福祉施設連絡協議会
（10）鈴鹿市就学支援委員会
（11）鈴鹿亀山地域自立支援協議会（発達部会･相談部会・圏域アドバイザー）
（12）鈴鹿市小児等在宅医療にかかる行政機関等連携会議
（13）鈴鹿市子ども・子育て会議

＊クラス別開設日

	月		火		水		木		金	
午前	こあら3 こあら4	うさぎ こあら5	うさぎ こあら1 こあら2	りす4	うさぎ こあら3 こあら4	りす7 りす8	うさぎ こあら1 こあら2	りす9	りす12 りす15	こあら3 こあら4
午後	↓	りす2 りす3	↓	りす5 りす6			↓	りす10 りす11	りす13 りす14	↓

＊クラス内容

クラス名	人数	対　象	内　容
うさぎ	24	肢体不自由児	集団療育（母子）
りす 2	9	情緒・知的障害児（年少）	集団療育（母子）
りす 3	7	情緒・知的障害児（年長）	集団療育(母子分離)
りす 4	12	情緒・知的障害児（年少）	集団療育（母子）
りす 5	10	情緒・知的障害児（年中）	
りす 6	10	情緒・知的障害児（年長）	集団療育(母子分離)
りす 7	11	情緒・知的障害児（年中）	集団療育（母子）
りす 8	8		
りす 9	12	情緒・知的障害児（年少）	
りす 10	11	情緒・知的障害児（年中）	
りす 11	10	情緒・知的障害児（年長）	集団療育(母子分離)
りす 12	9	情緒・知的障害児（年少）	集団療育（母子）
りす 13	10	情緒・知的障害児（年中）	
りす 14	9	情緒・知的障害児（年長）	集団療育(母子分離)
りす 15	5	情緒・知的障害児（年々少）	集団療育（母子）
こあら 1	7	情緒・知的障害児（未就園児）	集団療育（母子） 生活習慣支援
こあら 2	9		
こあら 3	12		
こあら 4	11		
こあら 5	7		
ととろ	5	情緒・知的障害児（未就園児）	集団療育（母子）

課題および今後の方針	各訓練に対するニーズが高く、特に、言語聴覚療法の訓練を希望する児童が大幅に増加しており、訓練を受ける機会の確保が困難な状況である。また、他の訓練を行う部屋も限られ、訓練室にパネルを設置して訓練スペースを確保したり、保健センターの貸館を活用したりして、利用者のニーズに対応している。なお、年々、療育や訓練の希望者が増え、今後もますます増加することが予測されているため、療育や訓練スペースの確保が課題となっており、早急に対応が必要である。 個別支援計画に沿った療育を実施していくとともに、関係機関(草の実リハビリテーションセンター、保健センター、保育所・幼稚園、学校、行政等)との連携強化を今後も継続して図っていく。

受託事業	
事　業　名	**鈴鹿市障害者生活介護施設　ベルホームの運営**
事業内容	1．指定管理受託期間（平成 28 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日） 2．生活介護事業 (1)利用登録 50 名（内訳：けやき棟 15 名、さつき棟 20 名、かりん棟 15 名） 開所日 257 日、延べ利用人数 8,279 名（平均 32.3 名） (2)個別支援計画に基づくサービスの提供 (3)訓練療育の実施（動作法、理学療法士による指導の実施） (4)余暇活動の支援（創作、外出、レクリエーション、スポーツ活動等の機会を提供） (5)健康状態の把握 協力医による歯科検診（9 月 1 日）、ブラッシング指導（3 月 2 日） 職員による健康チェック（月 1 回）、主治医との連携等 (6)保護者連絡会の開催（全体 1 回、棟別 1 回の計 2 回実施） (7)送迎サービスの実施 (8)食事提供サービスの実施 (9)情報共有の強化（Docuworks の導入） 3．日中一時支援事業 (1)利用登録　5 名、延べ利用人数　101 名 4．地域社会交流 (1)食事会招待（11 月 15 日）　主催：お好み焼きぐうちょきぱあ (2)清掃奉仕活動（12 月 14 日）　主催：白子ショッピングタウンサンズ (3)食事提供（3 月 6 日）　主催：三重県鈴鹿調理師会 5．障がい者理解および施設の啓発活動 (1)ホーム便りの発行（月 1 回） (2)イベントの参加や店舗の協力により花の木クラフト（創作品）を販売 イベント参加 ①第 30 回ふれあい広場鈴鹿（10 月 8 日） ②玉垣地区敬老会景品（10 月 9 日） ③NDC ホール（10 月 29 日） ④サンズ・アート展販売（1 月 19 日、20 日） ⑤鈴鹿市社会福祉協議会チャリティバザー（2 月 5 日） ⑥愛宕公民館学習発表会（2 月 25 日、26 日）

事業内容	⑦玉垣地区一人暮らし高齢者の集い（3月6日） 委託店舗 ⑧すずかのぶどう、鈴鹿カルチャーステーション、福祉センターの3店舗 (3)活動で取り組んだ成果の発表 ・「ベルホーム作品展」の開催 実施場所：鈴鹿市役所　15F展望ロビー　（11月1日～10日） 白子ショッピングタウンサンズ（1月17日～1月29日） (4)成人式の開催（1月6日） ・ボランティアや地域の方と一緒に、1名の成人のお祝いを実施 (5)福祉出前授業の実施（11月22日、11月29日） ・心のバリアフリーをテーマに講義と体験を実施 対象：津市立千里ヶ丘小学校6年生　　約150名 6．福祉交流 (1)小中高の学校生徒や特別支援学校生徒の体験学習の受け入れ ① 職業体験の受け入れ 鼓ヶ浦中学校3名（6月7日～10日） 白子中学校3名（9月13日～16日） 三重大学教育学部付属中学校2名（10月18日～19日） 千代崎中学校2名（11月7日～11日） ② ワークキャンプの受け入れ 千代崎中学校2名（8月1日～3日） 白子小学校3名（8月22日） ③ 特別支援学校生徒の受け入れ 北勢きらら学園　4名 杉の子特別支援学校石薬師分校　1名 ④ 社会人、大学、専門学校等の実習生の受け入れ 皇学館大学1名（10月31日～11月4日） ⑤ 施設見学訪問 鈴鹿医療科学大学4名（11月25日） (2)施設活動支援に取り組むボランティア等の受け入れ　　延べ　185名 白子地区民生委員・児童委員協議会の皆様による施設訪問ボランティア 地域清掃活動などを利用者の方と一緒に取り組む　月2回

	7．利用者の社会貢献活動の支援 (1)共同募金活動への協力　街頭募金への参加（10 月 13 日） (2)エコバッグの製作・配布（みどりのだいち） 8．職員研修の実施(外部研修、職場内研修等) (1)職員の資質向上のための研修会に参加 (2)関係機関等主催の各種研修会 15 件参加 (3)施設内研修を年間 6 回実施 (4)言語聴覚士による摂食指導を実施 (5)行政職員とのワークショップの実施（9 月 29 日、1 月 19 日） (6)他生活介護事業所における実地研修の実施（7 月 5 日）
課題および今後の方針	生活介護事業所へ移行して 5 年が経過し、登録数者も徐々に増えており、障害支援区分についても平均 5.2 と年々重度化の傾向にある。 特に、医的なケアが必要な利用者も増えており、受け入れを行う職員体制の整備が、課題となっている。 今後は、他施設や関連機関とも密に連携を図りながら、施設機能の充実と受け入れ体制の強化を行い、利用者のニーズや思いに沿った支援が展開出来るように努めていく。

受託事業	
事　業　名	**認知症初期集中支援チームの運営**
事業内容	認知症の早期支援を目的として、今年度より鈴鹿市から「認知症初期集中支援チーム」をモデル的に受託し、認知症の早期発見、早期診断、早期対応に向けての支援を行った。 **１．普及啓発推進事業：関係機関、市民への周知広報活動** (1) 中部地域包括支援センター圏域の民児協会議や出前講座等でのチーム紹介 **２．訪問支援対象者の把握：関係機関とのネットワークの構築** **３．情報収集：効率的な情報収集手段の開拓** (1)鈴亀地区居宅介護支援事業所・介護支援専門員連絡協議会との連携 (2)鈴鹿市医師会との連携 (3)鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステムとの連携 (4)鈴鹿市内地域包括支援センターとの連携 **４．　相談対応/在宅訪問** (1)相談件数:75 件/のべ訪問件数:152 回 **５．アセスメント：共通のアセスメントツールにて評価** **６．チーム員会議：専門医を含めたチーム員会議を開催（12 回）** チーム医:ますずがわ神経内科クリニック:真鈴川 Dr.、塩川病院:蛭薙 Dr. 初期集中支援計画の立案 **７．認知症初期集中支援の実施：概ね最長 6 か月以内で、医療や介護に移行させる。（支援終結数：34 ケース）** **８．医療機関、介護サービスへの引継ぎ、モニタリング** **９．初期支援集中支援に関する記録** **１０．鈴鹿市が開催する「認知症初期集中支援チーム検討委員会」への出席** 鈴鹿市担当職員と共に「鈴鹿市認知症初期集中支援チーム運営マニュアル」を作成し、平成 29 年度より新しく立ち上げる市内 3 か所の認知症初期集中支援チーム立ち上げの支援を行った。
課題および今後の方針	チーム員による支援を円滑に進めていくには、多くの課題がある。明らかに認知症の症状がみられても、本人がその生活上の困難さを自覚できず、外部からの関わりを頑なに拒否する場合や、家族が介護放棄するなど、対象者ごとに状況が異なり、その対応は様々である。支援にあたってチーム員だけでの支援では限界があるため、日ごろから地域包括支援センターやケアマネジャーなど関係機関と連携し支援を行っている。今後も引き続き関係機関とのネットワークを強化し、民生委員や認知症サポーター等地域にもネットワークを広げ、支援の幅を広げる。

成年後見制度利用支援事業

事　業　名	鈴鹿市後見サポートセンターの運営

事業内容

1．鈴鹿市後見サポートセンター運営委員会の開催

サポートセンターの事業内容や推進体制について、以下のとおり協議検討を行う。

（1）運営委員の委嘱

	氏　名	所　属	備考
1	貴島　日出見	鈴鹿医療科学大学	委員長
2	庄山　哲也	三重弁護士会推薦弁護士	副委員長
3	舘　博文	成年後見サポートセンター・リーガルサポート三重支部	副委員長
4	萩原　正芳	鈴鹿市医師会	
5	森本　義典	鈴鹿市医師会	
6	柴田　隆行	三重県社会福祉士会ぱあとなあみえ	
7	南川　久美子	障害者総合相談支援センターあい	
8	藤井　康彰	鈴鹿市社会福祉事務所	
9	吉田　四郎	鈴鹿市民生委員児童委員協議会連合会	
10	伊藤　顕誠	鈴鹿市福祉施設連絡協議会	
11	安藤　美香子	鈴鹿南部地域包括支援センター	

（2）運営委員会の開催状況

・第 1 回運営委員会　（平成 28 年 6 月 2 日）

（会議内容）

平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業計画、法人受任依頼案件等

・第 2 回運営委員会　（平成 28 年 9 月 15 日）

（会議内容）

後見支援にかかる遠隔地支援の在り方、法人受任案件報告等

・第 3 回運営委員会　（平成 29 年 2 月 26 日）

（会議内容）

市民後見人養成、法人受任案件報告等

2．相談実績について

（1）相談件数　159 件　（内、新規相談 82 件、継続相談 77 件）

（2）対象者内訳　＊新規

・高齢者　54 件（内、認知症 34 件、）、知的障がい 6 件、
精神障がい 7 件、その他 15 件（高次脳機能障がい、任意後見等）

（3）相談内訳

事業内容	・金銭管理、財産管理、金融機関の手続き、不動産の処分、消費者被害、将来の不安（任意後見）、未成年後見について **３．法人後見の受任について** （1）受任件数　3 件（後見類型 1 件、保佐類型 1 件、補助類型 1 件） ・受任者 1 名（後見類型）が他界し、受任件数が 4 件から 3 件となる。 **４．広報・啓発** （1）出前講座・研修会への参加 ・「鈴鹿市職員勉強会」（平成 28 年 5 月 27 日） ＊後見サポートセンター、成年後見制度説明、パンフレット配布 ・広報紙「社協すずか 9 月 20 日号」（平成 28 年 9 月 20 日） ＊後見サポートセンター案内、活動報告（市内全戸配布） ・「鈴鹿市保護司会　西部ブロック研修会」（平成 28 年 11 月 29 日） ＊後見サポートセンター、成年後見制度説明、パンフレット配布 ・「社会福祉協議会における成年後見の取組みに関する人材育成研修会」 ＊後見サポートセンター法人受任ケース紹介（平成 28 年 11 月 18 日） ・「鈴鹿市権利擁護シンポジウム」（平成 28 年 12 月 18 日） ＊行政、地域包括支援センターと共催、成年後見制度の啓発 ・「亀山市社会福祉協議会 生活支援員研修会」 ＊後見サポートセンター法人受任ケース紹介（平成 29 年 2 月 28 日） （2）先進地視察の実施 ・「伊賀地域福祉後見サポートセンター後見人のつどい」 （平成 28 年 8 月 25 日） ・「桑名市福祉後見サポートセンター市民後見事業説明」 （平成 29 年 2 月 8 日） **５．情報交換会への参加** （1）成年後見推進に向けた課題解決会議（三重県社協主催） 成年後見制度に関する広域（県域）課題について協議 ・第 1 回成年後見推進会議（平成 28 年 6 月 8 日） ＊県域の課題検討、研修企画等 ・第 2 回成年後見推進会議（平成 28 年 7 月 25 日） ＊研修企画等 ・第 3 回成年後見推進会議（平成 28 年 9 月 5 日） ＊県域の課題検討、研修企画等 ・第 4 回成年後見推進会議（平成 28 年 11 月 4 日） ＊成年後見制度の取組み状況にかかる調査、研修企画等

	・第 5 回成年後見推進会議（平成 29 年 3 月 17 日） ＊今年度の振り返りと来年度の取り組み等 （2）津家庭裁判所との連絡会議（平成 28 年 12 月 20 日） ・三重県社協主催による津家庭裁判所との連絡会議に参加 （3）家事関係機関との意見交換会（平成 29 年 1 月 20 日） ・津家庭裁判所主催による市民後見人に関する意見交換会に参加
課題および今後の方針	法人受任案件の内、1 名（後見類型）が他界したため、家庭裁判所への報告手続きや親族への引き継ぎ等を行った。その他の受任ケースの対応については、運営委員会にて協議すると共に、家庭裁判所への相談・確認を行いながら後見業務を進めた。 また、新たな取り組みとして、法律専門職と福祉専門職との連携（法福連携）を目的とした「鈴鹿市権利擁護ネットワーク会議」の開催に向け、関係機関と準備検討会議を行った。平成 29 年度は、この取り組みを更に強化し、本市における権利擁護事業の推進と会議で実施検討を行っている市民後見人の養成に向けた取り組みを進めていく。